

偉大なるジンギス・カーン、万里の長城にて

中国への旅の途中、リーファンは万里の長城の物語を聞きました。バス旅行の最中のことでした。

ある逸話によれば、モンゴルの人々の父親は青いオオカミ、母親が白い鹿だとされていました。モンゴル人たちは中国の北部に住んでいました。彼らは馬に乗り、羊を育てていました。



約 800 年前、モンゴルには有名な一人の兵士がいました。彼はテムジンといい、勇敢な兵士であるとともに優秀なリーダーでもありました。彼とかれの軍隊は動きに動きました。羊のために良質な草を探しました。そして彼らは南へと進み、中国の万里の長城に至りました。

「あれは何だ?」「どれほど長さがあるのか?」「誰がつくったのだ?」彼らは言いました。実際のところ、まだ中国はその長城を建設している途中でしたが、それでもすでに、その長城はとても長く、強固なものに仕上がっていました。

テムジンはその長城を見ていました。「強い人々が、あの強固な壁をつくった。腹をすかしたオオカミは大きなクマを襲えない。あの長城を越えていくことはできない。」

しかし、何年かしてモンゴルは強くなり、かれらの偉大な頭であるカーンは再びモンゴル軍を万里の頂上へと率いて進みました。その時こそは、彼は率いる軍隊と共に長城をのりこえ、中国へと進み、北京にまで達しました。そして、彼らの領地は東は太平洋、西はロシアに至るまで拡大したのでした。テムジンはついにアジアの偉大なカーンとなったのでした。今日、歴史書でジンギスカンについての足跡を見ることができます。

リーファンの物語をきいて次郎が言いました。「ジンギス・カーンだって? 北海道ではジンギスカンは食べるものじゃなかったかい?」

「あのね、次郎、あなた歴史はいやだけど食べ物は好きなのね。たしかに、私の父のレストランでジンギスカンを食べることはできるわ。羊の肉を丸い鉄板の上で焼くのよ。鉄板の中央は、山みたいに高く盛り上がっているわ。あれって、ジンギス・カーンのヘルメット（鉄兜）なのよ。」